

室蘭で製造された 巨大な大砲

なぜここに!



戦後引き揚げられた戦艦「陸奥」

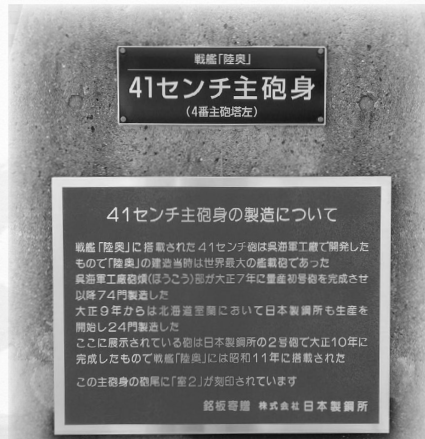
安藤 友幸 (室蘭市出身)

呉市の海事博物館「大和ミュージアム」を訪れた人をま
ず驚かすのは巨大な潜水艦でしょう。その次に関心を集め
ているのが正面横に展示されている大きな大砲です。
私が巨大な砲身を初めて見たのは、半世紀以上前
1970年(昭和45年) 7月23日でした。
当時、私は中国新聞社に入社したばかりの新人でした。
山口県の柱島沖に沈む戦艦「陸奥」の引き揚げ作業を
ニュース映画に記録する撮影班の助手として派遣されま
した。
海底42mに沈む戦艦の引き揚げは深田サルベージ(呉市・
当時)が担当、ワイヤーが切れるなど潜水士の水中作業は
困難を極めました。
砲身は長さは18
8m、口径41cm、戦
艦「陸奥」3900
0トンの主砲8門の
うちの1本で重量は
120tも有りました。



展示されている砲身と同郷の筆者

巨大なクレーン船に引き揚げられた砲身が海面に見えた
時には驚きと感動があったのを昨日のように覚えています。
謎の沈没から17年ぶりに海底から揚げたばかりの砲身
は泥まみれでそれは哀れな姿でした。
戦死した乗組員は1121人と記録されています。砲身
の他、多数の遺骨や印鑑、ヘルメット、食器などの遺品も
引き上げられ戦争の悲惨な現実を目のあたりにしました。
私たち多くの報道陣も含め遺族や作業員、関係者が首を
垂れ手を合わせて英霊の死を悼みました。
引き揚げられた砲身は私と同じ出生地の北海道の室蘭で
大正10年に製造されたことを後になって知り今でも感慨深い
ものがあります。
砲身は「鉄の町」「工業都市」として知られる室蘭市の日
本製鋼所で製造されたのですが戦艦本体は、大正10年に
横須賀の海軍工廠で建造されています。
製造された巨大な砲身はその後、台船で太平洋から瀬戸
内海、呉市へと運ばれ昭和11年に呉海軍工廠で新たな強力
な主砲として搭載されています。
しかし、戦時中の1943年昭和18年、6月8日正午過
ぎに山口県の柱島沖に停泊中に火薬庫が爆発、沈没したも
のです。原因は謎のままです。
日本製鋼所は明治40年に作られた民間初の兵器工場で世
界最大級の鉄の水圧プレス機を保有していました。終戦ま
で陸奥や長門の戦艦の砲身24門他、多数の砲身を製造した
ということです。
これらのことは2017年11月25日の夜、道産子の皆さ
んも視聴されたと思いますが、あのNHKテレビの人気番
組「プラモリ」で放送されました。
日本製鋼室蘭製作所の工場内や大砲の製造の仕組み、室
蘭の名勝なども詳しく紹介されました。
今度みなさん
が、大和ミュージ
アムを訪れる時
は、巨大な砲身の
前で歩みを止め、
北海道・室蘭から
はるばる運ばれ
た、戦争の遺物に
想いを寄せて見て
下さい。



室蘭で製造された事を示す銘板

カラオケ同好会

世話人 安藤 友幸 (室蘭市出身)

先日夕々にカラオケをみんなで楽しんだ。
道南会が開催され、その盛り上がりで、タフシー2台に分乗した酒
好きの男性会員5人が、道産子カラオケ同好会行きつけのスタンド
バーテンペクへ、マイクの争奪戦を繰り広げました。先客だった道産
子会員の松川さんとその友人と合流盛り上がりしました。
マスクの着用も任意になり、歌う環境も良くなり、カラオケ会を再
出発させたいと思います。人生後半です。時に声をしっかりと出し楽し
みましょう！
カラオケ同好会は会員登録無くても自由参加です。春、夏、秋、冬
の年4回の定期開催と初夏と秋には倉橋島の空き家別荘で泊まりの合
宿もあります。定員最大7人です。露天風呂、カヌー、釣り、カラ
オケなど楽しめます。

同好会 だより



倉橋別荘にて



別荘近くの海にて

お問い合わせ連絡、参加ご希望の方は安藤まで。
090-17123-19281
携帯電話、お願いします。

- 5月28日 川と緑のジンギスカン
- 7月26日 暑気払い道産子会ビアガーデン
- 8月下旬 北海道・九州県人会ビアガーデン
- 毎月第三週土曜 パークゴルフ同好会
- 盛夏 カラオケ同好会例会

編集後記

コロナの呪縛からやっと解放され、以前の日常が戻
ってきつつあります。これから、道産子会も様々な活動を
活発化していこうと考えています。みなさん日頃から体を
鍛えて積極的にご参加ください。また、メールやラインな
どお孫さんなどとされていたら、道産子会の方へも
繋げてください。(K・H)

広島道産子だより

第63号

編集 集
行 道 産 子 会
長 島 道 産 子 会
会 長 長 崎 信 浩
〒733-0821
広島市西区
庚午北4-9-25-102
印刷：
(株)インパルスコーポレーション

会長、挨拶



広島道産子会会長・長崎 信浩 (芽室町出身)

遅ればせながら…
ふるさと北海道は、酷暑の季節から日差しの穏やかな春を迎え、野山の動植物も活動を再開する時期となりました。広島道産子会会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
最近の3年間はコロナ禍で何もかも自粛を余儀なくされていましたが、感染状況もようやく落ち着きを見せ始め、多くの行事が再開されようとしています。

わが広島道産子会では昨年、1年遅れとなりましたが、設立30周年記念祝賀会を「30+1周年記念」として執り行いました。
祝賀会には洞爺湖町から町長代理として教育長の洪川賢一様および角田隆志様、関西北海道クラブ会長の小黒恵三様、北海道新聞大阪支社長長の笠井孝一様、さらに日頃から懇意に交流させていただいている岡山道産子会から会長の渋谷幹男様をはじめ会員の皆様など多くの遠来のご来賓の方々を始め、日頃よりお世話になっているサッポロビール(株)中四国統括支社長の横山雅一様、九州県人会の皆様にもご参加いただき、遅ればせながらの記念祝賀会になりましたが懐かしそしてとても楽しいひとときとなりました。多方面から多くの協賛もいただき、参加された会員の皆様にも改めて御礼申し上げます。
広島道産子会では明るく楽しい懇親の場を提供するためにゴルフやハイキングなどの同好会、故郷会では道南会や十勝会なども活動を再開し、今後は現在お住まいの地域ごとの懇親会なども開催したいと思います。また、会員皆様からの様々な提案なども取り入れたく、役員を中心に会員相互の声かけ運動も展開してまいります。

諸先輩が築き上げ、円熟した道産子会の歴史を次世代に引き継ぐことができそうです。そして、40周年、50周年が笑顔で迎えられるように願っております。

この30年間、ご協力ご尽力をいただいた会員の皆様、ご高配を賜りました関係各位には御礼を申し上げますとともに、今後とも引き続き暖かいご指導ご鞭撻をいただきますよう、遅ればせながらよろしくお願い申し上げます。



平井 和行 (札幌市出身)

昨年、残念ながら延期をした30周年記念懇親会。今年はなんとかでも開催したいと準備にも力が入りました。ご招待を差し上げるタイミングの9月に開催を決定しました。しかしながら、コロナの感染者数は増加傾向、祈る思いで当日を迎えました。
ご来賓として、北海道からも洞爺湖町の洪川教育長と角田さん、大阪や岡山からもご参加いただき会を盛り上げていただきました。まずは、名誉会員の高尾六平さんの洪い声の耳なじみのある朗読と、南一誠さんの魅力的な声での熱唱。極めつけは「広島天国」。そして「それいけカープ」は、会場みんなで合唱となり最高潮でした。久々にお会いした方と近況の交換など、あちこちで、お話にも花が咲きました。
後半は、高齢者表彰や、イントロ当てクイズなどで商品をゲットして盛り上がりました。
極め付きは、北海道へ移住された布田さん提供の「高級鮭」をめぐる大ジャンけん大会。見事射止めたのは、函館出身の三井さん。おめでとございます。と同時に羨ましかったです。
最後は、参加者全員で手をつないで、「故郷は遠い北国」などを参加者で合唱して楽しくお開きとなりました。